第 69 号　2025/8/26

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

終戦から 80 年　戦争を経験した人の証言

東京大空襲で家族を失った悲しさ

都内では 15 日、東京大空襲で家族を失った女性がみずからの体験を証言し、戦後 80 年がたっても消えることのない心の苦しみや悲しみを語りました。

東京都江東区の「東京大空襲・戦災資料センター」で開かれた催しには、親子連れなどおよそ 50 人が参加し、3 歳の時に東京大空襲に遭った吉田由美子さん（84）がみずからの体験を証言しました。吉田さんは空襲で両親と妹を亡くして戦災孤児となり、預けられた親戚の家では心ないことばをかけられたり体罰を受けたりした一方で、学校や地域の人たちに支えられ生活できたことなどを語りました。

小学 4 年生の娘と一緒に参加した男性は「これまでにない視点で戦争のことを知ることができました。きょう話を聞いて娘が関心を持ってくれたので、これをきっかけに戦争のことをほかにも学んでいければと思います」と話していました。

母親と一緒に参加した小学 5 年生の男の子は「戦争は 8 月 15 日で終わりではなく、残された人の中でその後もずっと続いているのだと感じました。これからは戦争が一切ないような世界になってほしいと思います」と話していました。

（NHK ニュース）

戦争について語る吉田由美子さん

8 月 15 日には日本各地で追悼や平和祈念の催しが行われました。各地で行われる終戦に関する催しは、戦争を直接体験した世代から、次の世代へとその記憶や教訓を語り継ぐ場として、大きな意義を持っています。私は高校の修学旅行で沖縄に行きました。その際に戦争を体験した人から当時のことについて教えていただく機会がありましたが、説明の最後に「戦争について話をするのはあなたたちが最後かもしれない」と話をされたのが印象に残っています。戦争を体験されている方々がご高齢になられたことに加え、戦争の話をしても関心を持ってくれないことを嘆いたのを今でも鮮明に覚えています。終戦に関する催しを通して、全ての世代で戦争の悲惨さだけでなく、そこから生まれた人々の思いや努力、平和を築こうとする姿勢が共有されることで、「戦争を繰り返さない」という思いが培われるのではないでしょうか。　（生井）